

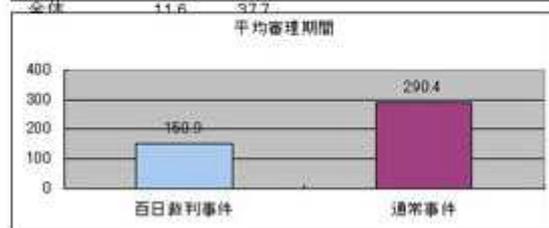
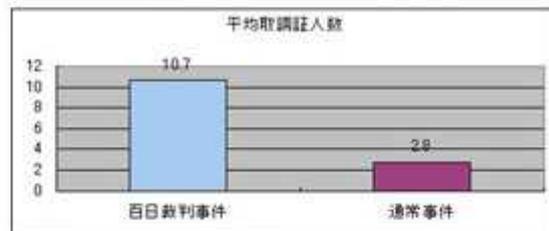
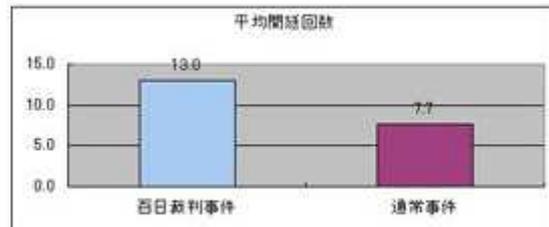
百日裁判事件と通常事件との比較

1 否認事件における地裁通常第一審百日裁判事件と地裁通常第一審事件全体の平均審理期間等(平成11年～15年累計)

	百日裁判事件	通常事件
平均開延回数	13.0回	7.7回
平均取調証人数	10.7人	2.8人
平均審理期間	160.9日	290.4日

百日裁判とは

公職選挙法は、法253条の2第1項において、当選人や選挙運動の総括主催者(いわゆる連座対象者)による一定の選挙犯罪事件(買収、事前運動等)については、訴訟の判決は、事件を受理した日から百日以内にこれをするように努めなければならないと定めています。これに基づいて行われる裁判を一般に百日裁判と呼んでいます。



2 否認事件における地裁通常第一審百日裁判事件と地裁通常第一審事件全体の平均開延間隔(平成11年～15年累計)

	百日裁判事件	通常事件
全体	11.6日	37.7日
受理～第1回	29.1日	55.0日
第1回～終局	10.2日	34.7日

